

2020.11 vol.30

新型コロナウィルス対応 PDF 版



JEACS

CONTENTS

	Page
・インタビュー 岩渕まこと	1
・新型コロナ禍における集会と歌唱	6
・Album 紹介	6

*Japan Evangelical Association
for Congregational Singing*

巻頭インタビュー 岩渕まこと

■東北支援

E. 岩渕さんは仙台出身ですけど、東北支援をする上で、東北出身であることはどんな意味がありましたか。

M. 僕らがやってるのは、東北応援団 Love Eastですが、久米小百合さんが、震災後に何か一緒にしたいと言ってくださったのが最初なんです。東北応援団 Love East は、被災地を支援したいアーティストを支援する活動ですけど、最近は、出かける人が減ってきたので、僕と小百合さんが行くことが多くなってます。

E. 支援を通じて、いろんな人たちとの輪が広がってますね。去年、御茶ノ水で行われた「ありがとう音頭フェス」も、とても楽しくて有意義な集会でした。個人的にも大切な証しが聞けて感謝でした。「ありがとう」のようなシンプルで気持ちの伝わることばを、いろんな場面でたくさん使っていきたいと思いましたね。

M. 「ありがとう」をテーマにした集会って、あるようで無いですね。僕が東北応援団で理事長をやってるのは、自分が東北人で、東北人のメンタリティが多少は分かるのと、もう一つは、クリスチャンが、クリスチャンの中だけで喜ばれるような活動をしてるような感じがして、本当に被災した人たちに寄り添って、その傷に触れることができているだろうか、という思いがあったからです。被災者は、余所から来てくれる人は、ありがたいから、ちゃんと聴いて拍手して送り返そうとするわけですよ。そういう地元の気持ちが理解されないで、伝道してきましたというような報告がされてるんじゃないかなという疑問がありました。反面、地元に流されてるんじゃないかなという心配や、いろんな思いがあるのも分かるんですが。

E. 3.11の後、日本の教会はそういう課題に向き合うようになりましたね。東北に行った人たちが、現場での経験をもとに、いろいろ考えるようになったと思います。支援について、今後の予定は何かありますか。

M. 今やってるのは、宮城県の南三陸で、来年の3.11に10年目の記念祈祷会を計画して、声をかけてくださっ



たんです。それがコロナ禍で開催が難しくなったので、CGN-TV の協力で 3 時間ぐらいの番組を作ることになって、萩原ゆたかさん、チェロの井上とも子さん、サックスのスティーブ・サックスさん、僕と妻のデュエットと、MC に久米小百合さんが加わるという形で準備しています。

■メジャー・デビュー

E. それは楽しみですね。ところで、最近、岩渕さんの初期のアルバム「スーパー・ムーン」(1977) と「エアーポケット」(1978) が配信で聴けるようになりました。岩渕さんのデビューは、いくつの時でしたか。

M. 24 歳です。高校時代にミューズっていうバンドでピクターからデビューする話しがあったんですけど、結局、2 年ぐらい後に僕ひとりピクターからデビューするという話しになったんです。その時のディレクターがソルティッシュガーナの高橋隆さんで、彼はフォーク演歌をやりたいって言ったんですが、僕はオリジナルをやりたかったから、結局、その時もデビューしなかったんです。

E. そして、コロムビアからデビューして、デビュー・アルバム「スーパー・ムーン」に行くわけですね。

M. 4 年ぐらい経ってますね。ピクターの話しを断って、東京でバイトしながら暮らしてたんですけど、将来どうしたらよいかも分からなくて、半分ノイローゼみたいになって仙台に帰ったんですよ。

E. 私は「スーパー・ムーン」を聴いて、岩渕さん、こんな音楽やってたんだって驚きました。

M. 仙台の頃はもう少しフォークっぽかったです。デビューの時には、5 社ぐらいから引き合いがあって、コロムビアにはかなりの好条件で入れたので、鈴木茂さんや鈴木慶一さんたちとアルバムを作ることができました。後でジャケット見ると、レコーディングに 40 日もかけてるんですよ。

E. それは贅沢ですね。『教会福音讃美歌』の CD は、一日に 3 曲ぐらい仕上げましたよ。

M. 今は僕らもそうです。1 枚目の時は会社も相当力が入ってましたね。2 枚目のバックは自分のバンドなんですが、アルバム 2 枚を出して、3 枚目作ってる時に、自分が分からなくなつたんですよ。3 枚目は作詞に岡本おさみさんを付けてくれることになっていたのに、僕の方ができなくなっちゃった。今考えると「エアーポケット」の最後の曲「風よ吹け高く」の歌詞は、それまでの自分に別れを告げてるように思いますね。芸能界的な華やかな中で、そこへ行けば何かが良くなると錯覚してたんでしょうね。テレビのこっち側の人があっち側に行ったら、あんな風になれるみたいな。実際はそんなことない訳で、3 枚目を作る前にどうしようも無くなつた。

E. 岩渕さんが仙台から狭山に越したのは、その頃ですよね。

M. 2 枚目の時には越してましたね。バンドのドラマーが住んでたんで、全員で狭山に出てきたんです。

E. 2 枚のアルバムを聴いた感想ですが、サウンド的には 1 枚目の「スーパー・ムーン」が大好きなんですよ。70 年代のウェスト・コースト・サウンドそのままで。ただ、1 枚目の歌詞には、当時の芸能界の匂いがしたんですけど、「エアーポケット」になって、歌謡曲的な小道具によらないで、身の回りのいろんなものを見て、ご自分の世界の方に戻っているような感じがしました。

M. 「スーパー・ムーン」の音は、日本の音楽シーンのある部分をメチャクチャ濃厚に捉えてますよね。それは自分にとっても夢の世界みたいなもんで、多分どっかで錯覚してるんです。オレってこういう人なんだ、みたいな。実は「エアーポケット」には「スーパー・ムーン」よりも前に作った曲も選んでるんですけど、そういう意味では、もとの自分らしい曲が「エアーポケット」にあるのかな。

■ギンイロヒコーキ

E. 小坂忠さんと出会ったのもその頃ですね。小坂忠さんは、岩渕さんにとってどんな存在ですか。

M. 憧れのアーティストの一人でしたね。ファースト・アンド・ラストの全国ツアーも観に行ったり、その人がすぐそばにいるんだ、スゴイなって思いましたね。



E. 小坂忠さんとの出会いが、岩渕さんの信仰の切っ掛けになったと聞きますけど。

M. 100% そうですね。忠さんと出会わなければ信じてなかっただろう。救われる前に「今度コンサート手伝って」と言わされて行ったのが弘前の教会でした。今から40年ぐらい前ですから、クリスチャンじゃない人と一緒に教会に歌いに行くのは、大変だったと思います。そのコンサートが終わった後に、空っぽ感がとっても少なかったんですよ。普通は打ち上げやって酔ってないと夜を過ごせないんですけど、そうじゃなかった。初めてイエスさまに触れられたのがその時だったと思いますね。それとツアーで九州の大牟田に行った時、その先生が「あなたは、九州を出る前にクリスチャンになりますね」って言うんですよ。次の日、北九州でコンサートの準備祈祷会に出たら、みんなが歌ってて、その時、会堂が揺れてるような感じがして、突然涙が出てきて、目の前にイエスさまがいるような感じがしたんです。イエスさまがこっち見て「なあ、お前、もう私のことは分かってるんだろう。これからどうする」って言ってるように感じたんです。その時、浮かんだイメージは、線が一本あって、右は乳白色でよく分からない、左は現実の世界なんですけど、なぜか僕がラーメン屋で麺の湯切りをしてるんです。神を信じたら、よく分からぬけど乳白色の世界が始まるのかなって思ったんです。それで宿舎に帰って寝る前に「神さまが本当にいらっしゃるなら、ひとつよろしく」とか言いながら寝たんです。翌日リハーサルが終わって食事してる時に、一緒に回っていた関根一夫先生に「昨日から涙は出るし、イエスさまがいるような気がするんですけど、どうしたら良いですかね」って尋ねたら、「じゃあさ、今イエスさま信じたら」って言いますよ。僕「はい」って言ったんですよ。それで一夫先生に教えてもらって、初めて祈ったんです。長いトンネルの向こうに明かりを見るような感じでした。次の日が仙台で、北九州空港からYS-11に乗ったら、雲の上に丸い虹が出てるのが見えて、機内には新聞のマザーテレサの記事を身内みたいな気持ちで読んでる自分がいて、オレ変わったんだなって思って、その時の感じを歌ったのが「ギンイロヒコーキ」なんです。

E. 今のお店の名前もそこから来てるんですね。それが人生の転機になったんですね。

■洗礼と歌声ペトラ

M. あのツアーは人生変わりましたね。涙が出そうになった夜に、妻に電話して「オレ、神さまいるって感じがするんだけど、もし神さま信じなかったら、このコンサートはやらないで帰る。演奏してたら信じてるんだと思う」って言ったら、「いいんじゃないの、信仰は自由なんだから」って言われて。

E. その時、奥様はまだクリスチャンじゃなかったんですね。奥様との出会いは高校の時ですか。

M. ミューズっていうバンドやってた時です。妻が言うには、僕は信じるようになって相当変わったらしいです。それまで音楽と芸術は好きだったけど、生きることはまったく不得意で、その人が教会に行くようになったんで、周りには相当変わって見えたんでしょうね。妻も「じゃあ教会に行ってみるよ」って言ってくれるようになりました。ミクタムのミュージックセミナーでだったかな、妻が、ある人から勧められて「自分には分からないけど、分かるようにしてください」ってお祈りしたら、なぜか、その時に分かつたって言うんですよ。今まで分からなかったものが後ろに行っちゃったんだと。それで信じるようになって、僕の誕生日が9月28日なんんですけど、ちょうど日曜日で、夫婦揃って洗礼を受けたんです。

E. 素敵な導きでしたね。ところで関根先生との出会いが、さっき出てきましたけど、あそこから歌声ペトラに至る道のりはどんな感じですか。

M. しばらく合ってない時期があって、96年ぐらいに僕はミクタムを離れるんですけど、その時ドラムの市原さんが「スティーブ・フォックスが関根一夫って言う牧師のことを話してたけど、知ってるか」って言うんで会いに行ったのが、歌声ペトラが始まる切っ掛けですね。その頃、大塚野百合さんの『讃美歌・聖歌ものがたり』を読んで、讃美歌の作者が生涯に何千曲も作ってるとか、毎週の説教の応答の讃美歌



を作っているとかいうのを知って、一夫先生に「先生もやれば良いじゃないですか」って言ったんですよ。そしたら「いいよ、僕が詩を書くから、岩渕君が曲付けて」って言われて、それで始まっちゃったんですよ。

E. お二人のやりとりが軽妙ですね。それであれだけの曲を作って、今も続いてるんですよね。

M. やめた訳ではないけど、御茶ノ水で毎月やってた頃は無理矢理作ってたのが、今はないからね。二人とも忙しくなっちゃったし。僕はあんまり情熱もって取り組むタイプじゃなくて、淡々とやってるだけなんです。時々スイッチ入れる時はありますよ、ポイント切り替えるみたいな。その時は力入れますけど、切り替わって走り始めたら、後は風が吹くまま、気の向くままで。人はほっとくと、すぐフレーム作るから、そういうの気をつけないと。何かをクリエイティブにやろうという人は、それまで築いてきたモノを壊せないとできないですよ。今までのモノを守った上に新しいものを建てるのは無理ですから。でも、それはなかなかできないんですよね、おっかなくて。

E. 岩渕さんはそれが飄々とできちゃってる感じがしますが。

M. ひょっとすると奥さんがちゃんとしてるからできるのかも。とりあえず線路の上を走れてるのは、奥さんがいるからじゃないかな。すごく僕のことを考えたり助けようとしてるから、そんなにしなくて良いって言うんですけど、目の前にこういう人がいるとそうなるのかもしれないですね。

■アリシアの森

E. ところで、前にアーティスト支援についてお話ししていましたが、何か形になりつつありますか。

M. 東北応援団でクリスチャン・アーティスト・サポートっていうクラウドファンディングを始めたのは、東北支援に従事したアーティストたちが新型コロナで困っているのを見て、助けたいと思ったからなんですよ。あれは支援金1回だけなので、それだけではやっていけないと思うし、コロナの影響は、後2年は続くだろうし、その後も元に戻るというより、違う形になっていくと思うんですよ。それでクリスチャン文化の振興みたいなことを考えたんですね。僕たちは今まで、クリスチャン文化はこういうものでって言えるものを育ててきただろうか、という思いや、クリスチャン文化自体が底上げされないと、クリスチャン以外の人たちが振り向いてくれないんじゃないかなっていう思いもあって、みんなでクリスチャン文化を引き上げていきたいと思ったんですね。それで「クリスチャン・カルチャー・コネクションズ アリシアの森」というのを立ち上げようとしていて、12月1日がプレオープンで、1月1日にサイトを正式オープンする予定です。そこでは、例えば、いろんな教会やアーティストたちが、それぞれの思いや考えてることをポツリポツリと語りながら、それが波紋のように広がって実を結んでいけば良いなあって思うんです。結論もいらないし、バラバラでも良いので、クリスチャン文化がいかに多様で豊かで、彩りと希望に溢れているというようなことが、香、音、ことば、見えるモノとして現れたら、それこそ伝道なんだろうなって思うんですよね。

E. だから森なんですね。

M. 育つし、変化するし、どっからでも入れるし、どっからでも出れる、という意味でね。2010年の「ケープタウン決意表明」がありますね。その中の芸術に関する項目（II-A-5）をひとつの柱にしたいと思っているんですね。そこに書いてあるのは、教会にとって芸術は大事であるとか、芸術が隣人との境界線を破させてくれるもので、自分たちの信仰も育ててくれるとか、だから教会にとって芸術家を育てることは大切である、ということだと、僕なりに理解してるんです。今、そういうことが欠けてるじゃないかと思うんですよ。

E. その問題意識には私も共感します。文化は、教会やクリスチャンが、神さまと繋がったり、人と繋がったりする上で、本質的なところにあるものだと思います。森にはすごく豊かな多様性があって、文化もそうで、多様なそれらが共存していく姿が理想だと思うんですよ。でも例えば「○○のあるべきカタチ」みたいなモノをみんな持ってて、ここには一種類の○○しか生えないし、育てないというような文化形成をしてきたのではないかというのが、私の中の問題意識です。

M. 一致とかそういうことを考えすぎるのかな。影響と理解で良いと思いますよ。大頭先生の焚き火の考え方方は良いですよね。とりあえず寒いんだから、みんなで焚き火を見ながら囲んでいようよと。

E. そう思いますね。「アリシアの森」は、ポータルサイトみたいところから始める感じなんですか。

M. そうですね、ポータル的になって行くしかないんですけど、会員制を取ろうとは思ってるんです。クリスチャン・カルチャー・コネクションズっていうのは、音楽に限らずアート全般、文字でも絵画でも建築でも何でもいいんです。それと受ける人たち、あるいは守って育てる人たちの森になっていけば良いと思う。あとはアーティストと対話もできるようなオンラインのアーティスト・カフェもやりたいんですよ。

E. つなげる働きですね。どう育っていくのか興味深いですね。

■クリスチャン文化の現状

M. それと僕みたいな立場の人間は、お金を生んで、働く人たちを支えることもしないといけない。

E. 実はホームページで岩渕さんのスケジュールを見せていただいて、去年は秋からクリスマスにかけて、週3回ぐらいで外部の奉仕が入ってたのに、今年はほとんど無い。岩渕さんでさえそななら、有名じゃないアーティストは、この一年、まったく奉仕が入らないっていうこともあるでしょうね。

M. そう思います。アーティストと言われる人たちはみんな困ってますね。僕もコロナになって、人間ってこんな感じで引退するのかって思いました。実は、10月末にイープラスからネット配信とチケット販売して初めてオンラインライブをやるんです。これって、ほとんどクラウドファンディングですよ。アーティストたちは何の収入もないからヤバいんですけど、オンラインライブがある程度成功すれば、僕じゃなくてもギンイロヒコーキを会場にして、イープラス使って開催できますから。ただ経費は普通にやるより、スタッフや機材で出していく、でも500人観てくれることもあり得るわけだから、やり方次第ですね。

E. 私がプレイ・フォワード始めたときも、そんな気持ちでした。最初、教会は、キャンプ場やアーティストが困っていることに、すぐには気付けなかったと思います。コロナが収まった時、キャンプ場が無かったり、アーティストがいなかったら、どうなるのか想像できるようになるまで、しばらくかかったと思うんです。

M. 教会の文化についてのイメージが低いままだと、アーティスト側も、もっと学ぼうとか、育とうとかしくなって、切磋琢磨しなくなりますね。正直言うと、ワーシップなんかでも、もっと切磋琢磨して、学んで、質の高い方へ変化する方向性を持って欲しいと思う。聖書から見て文化がどれだけ大事かとか、音楽家はどういう使命を持ってるかとかを考えるだけでも、立ち方がずいぶん違ってくると思うんです。

E. 日本のキリスト教会は、そういう土壤を育ててこなかったのかもしれませんね。

M. 今日話してて、二つなるほど自分で森についてわかったのは、今まで僕の森のイメージは針葉樹林ばかりだったんですよ。でも、いろんな木があるって確かにそうだなって。同じ木ばかり植林した森じゃダメだなって、もう一つ、森が成熟していくと葉っぱが落ちてそれが土壤になると、そういうイメージを思った。

E. 森には、バクテリアから昆虫から動物から鳥からいろんなものがいて、それが死んでは誰かの命の肥やしになり、豊かになりますね。森とか焚き火とかのイメージが語られることは、すごく大事だと思います。

M. 森は、主催者が何かをやっていく集まりじゃないから。いろんな思いをもつ人が植わってて、それがこんな木になっちゃうんだ、みたいな感じでいろいろやってくれたらいいんですね。特に若い人たちがやってくれたら。森の中に焚き火の場所も作ろうと思って、それは出会いの場みたいなもんですよ。一応、注意書きには書いとかないとね。「山火事注意！」とか。

■岩渕まことプロフィール (HP : [MAKOTO BOX](#) YouTube : [MAKOTO BOX](#) FB : [Makoto Iwabuchi](#))

1977年、日本コロムビアよりシンガーソングライターとしてデビュー。演奏活動以外に、CMソングやドラマもんの映画『のび太の宇宙開拓史』他の主題歌も歌っている。1980年、小坂忠氏とデュオで活動を始める。長女を天に送る経験を通して生まれた曲「父の涙」は多くの方々に愛聴されている。1996年再びソロ活動開始。チャーチコンサートやライブ活動の他に「歌声ペトラ」という新しい贊美歌を作り歌う会を開催してきた。「歌声ペトラ」の代表曲に『GOD BLESS YOU』がある。2007年、詩画作家、星野富弘さんの詩を歌うCD『べんべん草のうた』、2008年『日日草のうた』、2009年『サフランのうた』をリリース。2008年、横田早紀江さん作詞の「コスモスのように」を作曲。岩渕由美子が歌った。2009年、初の著作、エッセイ「気分は各駅停車」を発表。2011年の東日本大震災後に『東北応援団 LOVE EAST』を結成し、東北への支援活動を開始。同年12月、岩渕由美子とのデュエットアルバム「北上夜曲」をリリース。2012年デビュー35周年を迎え、仙台、大阪、東京で記念コンサートを開催。また東京基督教大学非常勤講師としてギターとウクレレを教え始める。現在までに30タイトルを超えるCDを発表。最新アルバムは2018年リリースの『風に乗って』。

新型コロナ禍における集会と歌唱

一時は減少傾向が見られた感染者数も、寒さと共に再び増加してきました。感染予防は教会の営みの中でも必要不可欠となりました。私たちは、この状況下でどのような配慮をすることができるでしょうか。

1. 基本的なこととして、①熱や咳など体調不良時の外出を控える、②マスク着用、③手洗い、④ディスタンスを取る、⑤真正面で向き合っての会話を避ける、これらは乳幼児以外のすべての人に求められます。
2. 会堂で集会を行う場合、①集まる人数の制限（収容人数の半数が目安）、②ディスタンスを確保できる座席配置(1.5~2m)、③プログラムで、起立・着席・移動などの動作を少なくする。④集会中の定期的な換気、⑤冬場の加湿と暖房、⑥来会者が触れる場所の消毒（適宜）、⑦来会者名簿の管理（感染があつた場合の連絡や感染経路の追跡のため）などは、教会に求められる対策です。
3. 複数の人が触れるものをできるだけ減らすことも大切です。①準備・奉仕・片付けは最小限の人数で行う、②聖書、讃美歌、スリッパ等は共用のものを使わず、自分のものを使いる、③献金、聖餐などの受け渡しに関わる人数を最小限にする、④複数の奉仕者が触れる部分の消毒（楽器、音響、空調、照明等）。

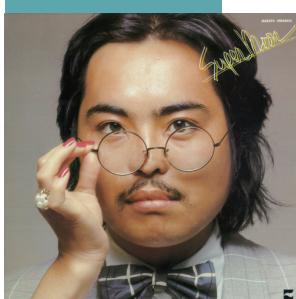
■飛沫拡散を防ぐ用具（フェイスシールドとマスク）

1. フェイスシールドは透明な硬い素材でできています、顔あるいは口元を覆います。表情が見えるという利点がありますが、声を反響しやすいので装着したままでの説教や歌唱は、耳に負担が掛かる場合があります。そもそも、上か下が開いているので、飛沫拡散を防ぐ効果は低くなり、フェイスシールドには感染防止の効果は無いというのが、内外の事例や研究から明らかになっています。
2. 正しく着用したマスクは飛沫拡散を防ぐ上で有効ですが、口を開けづらかったり、マスクが口にまとわりつく感じがあって、歌唱や説教には向きませんでした。この場合、マスクの内側にインナーフレームを使うと、まとわりつく感じが解消して呼吸が楽になります。口を開けるのは難しいですが、歌いやすくなります。インナーフレームを用いる際は、大きめのマスクを使い、上下左右のスキマに注意してください。他に「歌えるマスク」や「スポーツマスク」等も、後日、検証したいと思います。

■参考サイト

- ①合唱活動における新型コロナウイルス感染症拡大防止のガイドライン
- ②MCS Young Artists【まとめ】合唱とコロナに関する当ブログの投稿一覧

Album 紹介



1st Album 「スーパー・ムーン」(1977) 2nd Album 「エアーポケット」(1978)

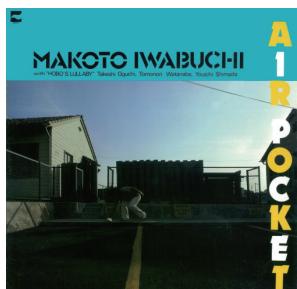
演奏：岩渕まこと

シンガーソングライターの岩渕まことが1970年代に日本コロムビアからリリースした1stアルバム「スーパー・ムーン」と2ndアルバム「エアーポケット」が、この秋、iTune、Spotify等で聴けるようになった。どちらも信仰を持つ前のアルバムで、キリスト教的な内容は含まれない。しかし、現在、日本のゴスペル・ミュージック・シーンの第一線で活躍するミュージシャンの初期の音楽性が伺える貴重なアルバムと言える。

「スーパー・ムーン」のバックは、鈴木茂、林立夫、鈴木慶一とムーンライダーズなど、当時最高のロック・ミュージシャンたちが務めている。西海岸の風を感じさせながら、カントリーやラテンの要素を取り入れたアレンジは、時にザ・バンドやリトル・フィートの名曲を彷彿

とさせながら、岩渕まことの詩と見事に融合している。歌詞は、現在の岩渕とは異なる歌謡曲的な世界観に立っているが、音とことばのマッチングが素晴らしい、ソングライターとしての高い力量を感じる。

『エアーポケット』の歌詞については、作者自身がブログに「自分の詞の世界観みたいなものを改めて発見したような気持ちになりました」と書いているように、今に通じる素直で豊かな感性が溢れている。バックバンドはHobo's Lullabyで、1stアルバムよりタイトなニューミュージック調に仕上がっている。どちらのアルバムでも、若い岩渕まことの伸びやかな歌声を聴くことができる。



会計報告

2020年4月～2020年9月

■収入の部■

科 目	2020 年度予算	2020 年度実績
会員負担金 （正会員）	1,060,000 (750,000)	885,000 (750,000)
（準会員）	(60,000)	(60,000)
（賛助会員）	(250,000)	(75,000)
自由献金	450,000	39,300
積立金取り崩し	100,000	0
特別収入	0	0
その他	0	1
当年度収入合計 (A)	1,610,000	924,301
前年度繰越金	861,738	861,738
収入合計 (B)	2,471,738	1,786,039

■支出の部■

科 目	2020 年度予算	2020 年度実績
理事会費	115,000	8,000
委員会費	340,000	25,467
人件費	360,000	180,000
事務費	395,000	129,413
ジャーナル発行費	310,000	36,336
カンファレンス開催費	190,000	0
総会開催費	15,000	0
JEA 関係費	90,000	41,000
経常支出合計	1,815,000	422,216
特別支出 積立金	100,000	100,000
予備費	5,000	0
当年度支出合計 (C)	1,920,000	522,216
当年度收支差額 (A) - (C)	-310,000	402,085
繰越額／残高 (B) - (C)	551,738	1,263,823

●賛助会費納入者・献金者一覧 (2020年4月～2020年9月)

個人：篠田安子、田村勉、福田崇・愛子、本間昭弘(2)、山村雅彦、横倉知恵、匿名(8件)
 教会・団体：都賀キリスト教会、武藏台キリスト福音教会、インマヌエル金谷キリスト教会(3件)

お名前の掲載を希望されない場合は、通信欄に匿名希望とお書きください、メール (info@jeacs.org) で、その旨をお知らせください。

一年の感謝と冬期献金のお願い

主こそ 狩人の罠から 破滅をもたらす疫病から あなたを救い出される。詩篇 91:3

主にある皆さま

救い主の聖い御名を讃美いたします。

いつも福音讃美歌協会のためにお祈りとご支援をいただき、心から感謝いたします。今年、世界は新型コロナウィルスの脅威に覆われ、かつて経験したことのない一年を過ごしてきました。

福音讃美歌協会の働きも例外ではありません。セミナーやオーディオコンサートは、すべてキャンセルとなり、出版予定であった『合唱譜』も、聖歌隊活動のできない状況では延期せざるを得ませんでした。理事会や各種委員会も集まることができず、オンライン開催となりました。

他方、礼拝配信をオンラインで行う教会が増え、それに伴って讃美歌著作権についての問い合わせが以前の数倍に急増しました。著作権についての関心が高まったことは喜ばしいことで、できる限りの対応を心がけておりますが、専従の専門スタッフがいない中、複雑な問題に十分対応できない現状があることも事実です。この場を借りてお詫びいたします。

今の状況で、讃美における感染対策と著作権の問題は大きな関心事ですが、来年はいくつかの課題についてWEBでのセミナー（ウェビナー）を開催する予定です。詳細は決まり次第、ご案内いたします。また、『教会福音讃美歌』の全曲音源についても、来秋にはご提供できるよう、いのちのことば社と共に、鋭意、取り組んでいるところです。他にも、『あたらしい歌3』の編集や、讃美歌についての解説情報を集めた『情報ページ』の充実などにも取り組んでまいります。

皆様のお祈りとお献げくださる献金は、福音讃美歌協会の働きの継続のために無くてならないものです。しかし、今年はコロナの影響もあって、自由献金、賛助会費とも大きく減少しており、外部奉仕が無くなつたため、書籍、CD等の販売も落ち込んでいます。教会の必要に応えられる十分な活動を継続的に行うには、例年並みの献金、収入が必要となります。この働きが主の御心にかなつて継続されるよう、お祈りとご支援をいただきたく、心からお願ひ申し上げます。

救い主を待ち望むこの時期、皆さまの上に主からの豊かな祝福を心からお祈りいたします。

福音讃美歌協会 理事一同

◆郵便振替口座◆
番号 00220-1-95127
名称 福音讃美歌協会

◆ゆうちょ銀行口座◆
〇一八店 普通 7252410
一般社団法人 福音讃美歌協会

◆みずほ銀行ユーカリが丘支店◆
普通預金 番号 1604668
名称 福音讃美歌協会

■福音讃美歌協会 ◆賛助会員募集

- ・「賛助会員」は、福音讃美歌協会の趣旨に賛同し、支援してくださる教会や個人の会員です。
- ・賛助会員のお申し込みは、福音讃美歌協会までメールかFAXで入会申込書をご請求ください。
- ・賛助会員の年会費は、一口5,000円で、個人は一口から、教会は二口からでお願いします。
- ・正会員、準会員の詳細については、福音讃美歌協会まで直接お問い合わせください。



福音讃美歌協会 (JEACS)

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1 OCCビル 602号室
Tel.03-5341-6920 Fax.03-5341-6921 (いのちのことば社出版事業部内)
ホームページ <http://jeacs.org/> メール info@jeacs.org
[Facebook](#) [YouTube](#)